

平成 30 年度研究推進計画に係る研修会

研究部

- 平成 30 年度 研究推進計画 1

- 1 学年 1 授業実施スケジュール及び
授業者 5

- 研究部様式 7
(・平成 30 年度学習指導案様式,
・平成 30 年度専門職協議会様式,
・平成 30 年度言語聴覚士による指導
記録一原本)

- 生活単元学習 授業づくりのポイント
抜粋資料 13

平成 30 年度研究推進計画

1 今年度の研究テーマに基づいた研究

(1) 研究テーマ 児童生徒の意欲，主体性を育てる授業づくり

～廿特版「学びの変革」アクション・プランに基づく生活単元学習の授業改善（二年度）～

(2) 研究の進め方

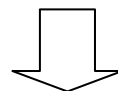
昨年度は，各学部の教職員で作成した仮説に基づき，目指す児童生徒の姿を明確にしなが，授業づくりに取り組んだ。その結果，教職員の授業改善に対する意識が高まり，児童生徒の成長・発達へと繋がる変容を実感することができた。しかし，課題として，児童生徒の変容を具体的な指標で評価ができなかったことが挙げられる。

そこで，今年度は，アクション・プランに基づく授業改善を更に進めるために次の5点に取り組む。

- ① 全校共通の仮説を基に，各学部の実態に合わせた研究仮説を設定する。
- ② 昨年度末に改善した単元（題材）計画を活用し，育成したい資質・能力を明確にして設定した目標の達成状況を，単元（題材）計画「3 カリキュラム・マネジメント」の記述を分析してまとめる。
- ③ アクション・プランに基づく授業改善シートを作成し，個々の指導・支援の適切さを，授業改善シートによる自己評価，他者評価から捉え，具体的な指標で評価する。
- ④ 単元（題材）計画及び指導略案による1学年1授業を実施するとともに，一人年間1回以上の授業観察を行う。
- ⑤ 単元（題材）計画についてアンケートを取り，より使いやすいものへ改善する。

ア 仮説・検証方法

仮説	検証方法
<p><u>育成したい資質・能力を明確にし，単元（題材）の評価規準を設定するとともに，個々の指導・支援を適切に行う</u>ことにより，育成したい資質・能力を身に付けることができるであろう。</p>	<p>①単元（題材）計画 「3 カリキュラム・マネジメント」欄の記述により目標の達成状況，目標設定の妥当性，指導・支援の適切さを評価する。 ②授業改善シートを活用した自己評価，他者評価による指導・支援の変容を見取る。</p>



学部	仮説
小学部	
中学部	
高等部	

イ スケジュール（2年次）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修会 研究の説明	仮説決定			夏期公開講座 研究テーマ関連講座		単元づくり検討会 ⇒ 学習指導案検討会 ⇒ 授業シミュレーション 公開授業研究会（12月15日（土）） 研究授業・公開授業					研究のまとめ ⇒研究紀要の作成
担当学級 決定	1学年1授業 授業観察実施 単元づくり検討会⇒授業観察⇒授業まとめ										
単元（題材）計画及び指略案による授業改善（各学級）											

(3) 1学年1授業

各学年から1学級を決め、授業観察を実施する。多くの教職員が授業観察できるよう時間割を変更し体制を組む。実施に向けた大まかな流れは以下のとおりとする。

- ① 授業開始2週間前：授業者から授業のねらいを説明する単元づくり検討会を各学年で実施する。
- ② 授業開始1週間前：単元（題材）計画、指導略案を研究部に提出する。
- ③ 授業実施：授業改善シートを持参して授業観察する。
- ④ 授業後：授業者、参観者は、授業改善シートを研究部に提出する。授業のまとめを研究部が行い、各学年で振り返りを行う。その後、学部全体に報告する。

(4) 公開授業研究 平成30年12月15日（土）

ア アドバイザーを招聘しての授業研究

学部	所属・職名・氏名
小学部①	広島文教女子大学 人間科学部 人間福祉学科 李木 明德 教授（調整中）
小学部②	広島県教育委員会 特別支援教育課 指導主事
中学部	広島県教育委員会 特別支援教育課 指導主事
高等部	広島大学大学院教育学研究科特別支援教育学講座 竹林地 毅 准教授（調整中）

イ 公開授業研究担当学級及び授業者

小学部①「生活単元学習」単一障害学級	5年2組	（石津 愛希）
小学部②「生活単元学習」重複障害学級	4年4組	（朽木 こころ）
中学部「生活単元学習」単一障害学級	2年2組	（村山 香）
高等部「生活単元学習」単一障害学級	1年2組	（田中 麻美）

ウ 単元づくり検討会（1学年1授業、公開授業研究）、学習指導案検討会（公開授業研究）、授業シミュレーション（公開授業研究）、公開授業研究会

1学年1授業のための単元づくり検討会を各学年で実施する。1学年1授業を行い、明らかになった課題を基に授業改善を行う。具体的には、各分科会に分かれ、公開授業研究会に向けた各授業の単元づくり検討会

及び学習指導案検討会を経て公開授業研究会を実施する。また、公開研究授業を担当しない学級においては、単元づくり検討会、1学年1授業、授業まとめ等の成果と課題を踏まえ、単元（題材）計画及び指導略案による授業改善に努める。

公開授業研究に向けた流れ	
各分科会	単元づくり検討会 10月
	学習指導案検討会 10月
	授業シミュレーション 11月

(5) 各学級の実践成果の公表

- ・各学級（公開授業研究担当学級及び訪問学級を除く。）が研究テーマに基づいて行った授業改善の成果と課題をまとめ、公開授業研究会でポスター発表を行う。また、「授業実践集」としてまとめる。

(6) 公開授業研究会

平成30年12月15日（土）

日程	内容
9:10	児童生徒登校
9:20～ 9:40	受付
9:45～ 10:00	開会行事, 研究成果報告
10:05～ 10:55	公開研究授業
(小学部	小学部①「生活単元学習」単一障害学級 5年2組 (石津 愛希, 高本 菜穂子)
10:05 ~10:50)	小学部②「生活単元学習」重複障害学級 4年4組 (朽木 こころ, 大吞 美子)
	中学部 「生活単元学習」単一障害学級 2年2組 (村山 香, 古本 聡)
	高等部 「生活単元学習」単一障害学級 1年2組 (田中 麻美, 久保田 丞)
	下線は授業者
11:00～11:50	小・中・高等部公開授業（訪問学級，公開研究授業担当学級を除く全学級）
(小学部	
10:55～11:40)	
12:00～13:30	校内見学, ポスター展示見学, 昼食休憩 (13:30:児童生徒下校) (13:00～13:30 研究協議会打合せ:担当者のみ)
13:50～14:45	各学部・研究協議会(保護者参加不可)
14:45～14:50	休憩・移動
14:50～15:50	講演 「 (調整中) 」
	講師 広島大学大学院教育学研究科特別支援教育学講座 竹林地 毅 准教授
15:50～16:00	閉会行事
16:00～16:45	教職員:休憩
16:45～	片付け

(7) 夏期公開講座の実施

平成30年7月25日(水)～7月27日(金)の3日間程度を中心として開催する。

- *このうち、研究部主催の講座については、本校の研究テーマに関連した内容の講座とする。

(8) 研究のまとめ

ア 平成 30 年度研究紀要の作成

イ 授業改善の視点で成果と課題を整理し、平成 31 年度研究推進計画を作成する。

2 各研究大会への参加と発表

広島県特別支援学校教育研究大会での研究発表（ポスター発表予定）

平成 30 年 12 月予定

3 専門職との連携について

(1) 専門職研究協議会

各学部から 1 名の児童生徒を対象とする。主に自立活動についての目標、指導内容について、作業療法士、理学療法士から助言を受ける。前期の協議会は 6 月～7 月に設定し、授業参観をしてもらう。その後担任は指導内容を実施し、後期の個別の指導計画作成に反映する。後期の協議会は 10 月に設定し、授業参観を通して、後期の目標、指導内容についての助言を受ける。

(2) 言語聴覚士による指導

摂食指導、言語指導について、担任からの希望を集約して、言語聴覚士（外部人材活用制度）から指導助言を受け、日常の摂食指導、言語指導に反映させる。（希望のあった児童生徒について、最高で 3 回程度の指導を受けることができる。今年度も 48 時間程度を計画し、年間を 1 期～3 期に分けて実施する予定である。）

4 研究だよりの発行

今年度の研究テーマ及びテーマに沿った研修会、一学年一授業、公開授業研究会等の取組を研究だよりにおいて公開する。また、専門職との連携（専門職研究協議会、言語聴覚士からの指導助言等）についても、研究だよりに掲載し、本校教職員で成果を共有するとともに保護者及び関係者に情報発信をしていく。（研究だよりは、本校教職員、保護者に配付する。また、本校ホームページに掲載する。）

5 平成 30 年度研究部様式

研究部様式 1（研様式 1）・・・（調整中）平成 30 年度 学習指導案（細案用）

研究部様式 2（研様式 2）・・・単元（題材）計画

研究部様式 3（研様式 3）・・・平成 30 年度 指導略案

研究部様式 4（研様式 4）・・・平成 30 年度 専門職研究協議会

研究部様式 5（研様式 5）・・・平成 30 年度 言語聴覚士による指導・助言記録

研究部様式 6（研様式 6）・・・（調整中）平成 30 年度 授業改善シート（参観者用）

研究部様式 7（研様式 7）・・・（調整中）平成 30 年度 授業改善シート（セルフチェック用）

- 5 ■ 単元（題材）の目標
- (1)
- (2)

単元の場合は（題材）を削除

「年間指導計画」に従い記入する。「年間指導計画」を変更する場合は、修正後の「年間指導計画」を特別支援教育課に提出する。

1行挿入

- 6 ■ 単元（題材）の評価規準

単元の場合は（題材）を削除

単元の の 評価規準	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度		
	・◇◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇◇	・◇◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇◇	・◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇		
はつかいち 「学びの変革」	ち【知識】 知識・情報 技能・行動	は【働く力】 思考力・判断力 ・表現力	か【活用】 知識・技能 の活用	い【意欲】 興味・関心 ・主体性	つ【つなぐ】 共同・協同 ・協働

「単元（題材）計画」から転記する。知識及び技能、思考力・判断力・表現力等は「◇◇について△△を理解している。」「◇◇の技能を身に付けている。」「◇◇について考えたことを表現している。」。主体的に学習に取り組む態度は「すすんで◇◇しようとしている。」「◇◇を生かそうとしている。」等、具体的に記入する。

1行挿入

- 7 ■ 指導計画（全 時間）

	指導計画	時間	指導内容（学習活動）
上詰め	第1次 ・◇◇◇◇◇◇ ・を付ける ◆◆◆◆◆◆	3 上詰め	・◇◇◇◇◇◇ ・◇◇◇◇◇◇ ◆◆◆◆◆◆
	第2次 ・◇◇◇◇◇◇	5 本時 3 / 5	◆◆◆◆◆◆
	第3次 ・◇◇◇◇◇◇	2	

- ・「単元（題材）計画」から転記する。
- ・目標達成のために、学習活動をどのような順序で指導していくのかを記入する。
- ・まとまりごとに「第◇次」でくり、時間配分を記入する（本時も明示する。）
- ・指導計画全体を見渡し、それぞれの時間の指導内容（学習活動）を端的に記入する。
- ・指導の過程や指導内容が明確になるように記入する。

1行挿入

- 8 ■ 本時の目標
- (1) 全体の目標
- ア ■
- イ ■

単元（題材）の目標、全体の目標、個々の目標が関連するよう、学級（集団）全体に関わる目標を記入する。

1行挿入

- (2) 個々の目標

生徒（児童）	これまでの様子	目標
中央 揃え	A ・を付ける ・	・を付ける ・
	B ・	・

ポイント！！
単元（題材）の目標、
全体の目標と関連して
いますか？

- ・「これまでの様子」は、「目標」に関連する本単元（題材）等における様子を記入する。
- ・「目標」は既に達成済の内容ではなく、少し頑張れば達成できそうな内容を記入する。
- ・「目標」の語尾は、「◇◇することができる。」とする。「◇◇を意識することができる。」等の抽象的な内容は評価できないため使用しない。

1行挿入

9 ■ 準備物

◇◇◇◇, ◇◇◇◇, ◇◇◇◇◇, ◇◇◇◇◇◇, ◇◇◇◇◇◇◇, ◇◇◇◇◇◇◇◇,
◇◇◇◇◇◇◇◇, ◇◇◇◇, ◇◇◇◇◇, ◇◇◇◇◇◇◇◇

できるだけ詳しく記入する。(補助具を含む。)

1行挿入

10 ■ 学習過程 (※別紙)

※を
付ける

1行挿入

11 ■ 評価の観点

項目名注意

- (1) 研究テーマについて (学部仮説)
- (2) 単元の評価規準について (はつかいち5つの観点)

- (1) は、本年度の研究テーマに関する評価について記入する。
- (2) は、評価規準に関する評価について記入する。

1行挿入

12 ■ 教室内配置図

項目名注意

- ・参観者が児童生徒を把握しやすいよう、可能な限り「10 学習過程」と「12 教室内配置図」の児童生徒 (アルファベット表示) の並びを揃える。
- ・ワークシートの発表時の配置図, グループ活動時の配置図等, 学習場面ごとの配置図を記入する。

(※別紙) は削除

10 ■ 学習過程

学習活動	指導上の留意点 (課題 <input type="text"/> , ○指導・支援, ☆評価)			学びの 変革
	A	B	全体	
(導入) 1 ◇◇◇◇ (◇分) 行替え 2 ◇◇◇◇ (◇分)	課題の書き方例 「大きな声で発言する。」 学習活動における、個々の課題を記述する。課題に対する指導・支援、評価はすべて書く。			
(展開) ◇◇◇◇ (◇分) ◇◇◇◇ (◇分) ◇◇◇◇ (◇分)	◇◇◇◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇◇する。 語尾注意 ○◇◇◇◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇◇ (T1) T1, T2 を記述 ☆◇◇◇◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇◇できたか。 語尾注意		○◇◇◇◇◇◇◇ ◇◇◇◇◇◇◇◇	は か
(まとめ) ◇◇◇◇ (◇分)				

簡潔に記述

語尾

個々の目標 「大きな声で発言することができる。」
 課題 「大きな声で発言する。」
 評価 「大きな声で発言することができたか。」

「本時の目標」「個々の目標」に該当するところに、
 「学びの変革」はつかいち、の
 いづれかを付ける。
 記述位置は、 に揃える。

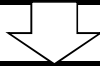
例「姿勢よく挨拶する」例「着席する」等、課題と関連しないものについては で表記しない。
 で表記するものは、目標に関わる課題のみ。

【個別の指導計画 年間目標】

・
・
・

【前期】

個別の指導計画 自立活動 目標						
具体的 支援						



【PT・OTによる指導助言】

PTより
OTより



【後期】

個別の指導計画 自立活動 目標						
具体的 支援						

【2回の専門職研究協議会を終えて】

--

言語聴覚士による指導・助言記録		
学部・学年・組・児童生徒氏名	[小・中・高] 第 学年 組 児童生徒氏名 ()	
担任氏名	全員の氏名を記入してください	
指導・助言を受けたい項目	言語	摂食
月 日 () 校時 : ~ : <教科> <場所>		
児童生徒の実態及び指導・助言を受けたい内容	① ② ③ ・ ・ ・	① ② ③ ・ ・ ・
指導・助言	S T の先生に記入していただきます	
今後の取組	① ② ③ ・ ・ ・	① ② ③ ・ ・ ・
児童生徒の変容		
① ② ・ ・		
備考		
・ 次回の希望 (あり・なし) ・ 指導・助言を受けたい項目 (言語・摂食) ・ その他 ()		

夏期公開講座

「生活単元学習における単元づくりのポイント」

広島大学大学院教育学研究科 特別支援教育学講座 准教授 竹林地 毅 先生をお招きし、「生活単元学習における単元づくりのポイント」と題して、御講演いただきました。



講義 「生活単元学習における単元づくりのポイント」

生活単元学習において、「これまでの経験から自分の行動を考え、判断し、行動すること」が学びの中核であり、前の単元で学んだことを生かして次の単元へ繋げていく積み重ねが大切であると、お話しいただきました。また、単元づくりで大切なこととして、「教師と子どもの合言葉」になるような単元名にすることや、児童生徒が今できることを大切にしたい授業づくりがポイントであること等を教えていただきました。

児童生徒の「なりたい自分」「やりたいこと」を中心に、教師が教えたいことを児童生徒の学びたいことへつなげていくことや、児童生徒の内面の変化を教師が捉えることが大切であるとお話されたことが印象的でした。



演習 「児童生徒の主体的な学び・学びがつながる単元づくり」

講義の中で、「遊びを中心とした単元」「行事・季節単元」「生活課題単元」のグループに分かれ、提示された単元計画をリメイクしていく演習を行いました。講義の内容を基に、児童生徒と教師の合言葉になるような単元名を考えたり、実際に一人一人が児童生徒に育てたい力を想定して、授業の展開を考えたりしました。生活単元学習の授業づくりのプロセスについて考えを深める機会となりました。



単元づくり検討会ワークシートより（抜粋）

☆ワーク1 【単元の到達点を考える】

「分かりやすい到達点を設定する。」

- ・単元の「ゴール」を明確にします。単元名と同様、児童・生徒にとって分かりやすく見通しがもちやすい到達点を設定します。

知的障害のある児童・生徒を対象とした教育内容・方法の充実事業報告
東京都教育委員会（平成26年）

☆ワーク2 【単元名のリメイク】

「児童・生徒が言える単元名にする。」

- ・単元名は、単元の内容・目標を決定付ける重要な役割をもつ。

単元名は、単元の到達目標を表したものであり、児童・生徒と教師が単元に取り組む際の「合言葉」であることを実感しました。魅力ある単元づくりには、テーマや到達目標を表す適切な単元名が欠かせません。

知的障害のある児童・生徒を対象とした教育内容・方法の充実事業報告
東京都教育委員会（平成26年）

☆ワーク3 【指導計画のリメイク】

「児童・生徒の学びの文脈（つながり）をつくる単元・授業」

- 単元・授業の導入・・・挑戦する，夢をえがく
- 単元・授業の展開・・・役割をもつ，工夫する
- 単元・授業のまとめ・・・振り返る，対話する

「生活単元学習における単元づくりのポイント」竹林地毅（平成29年）

☆ワーク4 【授業実践に向けて】

「生活単元学習を評価する1つの視点」

- ①単元名が生活に即し、分かりやすく、吟味されているか。
- ②単元の目標が生活上の目標達成や課題解決につながるものになっているか。
- ③実際の生活から発展した計画になっているか。
- ④身に付けた内容を生活に生かす計画になっているか。
- ⑤児童生徒の目標意識や課題意識を育てる活動を含んだ計画になっているか。
- ⑥児童生徒が興味・関心や課題意識をもてる授業の導入になっているか。
- ⑦児童生徒が十分活動し、繰り返す中で、気づき、考え、試行する授業の展開になっているか。

特別支援学校 生活単元学習ガイド
秋田県教育委員会（平成28年）

児童・生徒が「今できること」を大切にす。

「うまくいった」「自分でできた」と実感することができる活動により、人から認められたり褒められたりする経験を多く味わうことができるようにします。そのためには、児童・生徒の「できること」の把握と、「できる状況づくり」が重要です。

知的障害のある児童・生徒を対象とした教育内容・方法の充実事業報告
東京都教育委員会（平成26年）